

「笑っている父親が増えれば、笑っている母親も増える、そして子どもたちも笑う。」そんなフレーズを合言葉に活動されている「ファザーリング・ジャパン滋賀」のみなさん。「ファザーリング」とは、家事や育児に「参加」するという受け身の意識ではなく、主体的に自分が「やれること」「やりたいこと」を進んでやること、父親であることを楽しもう、人生を楽しもうという考え方です。

今回は、「パパと子どもの里山体験セミナー in 比良PART II」(もちろんママも大歓迎)の様子を紹介します。

6月に種まきをした赤シソを収穫し、赤シソジュース作りにチャレンジしました。その他にも、流しそうめんや森のクラフト(竹の水てっぽう)を親子で存分に楽しみました。

ファザーリング・ジャパン滋賀の代表理事、八木雅彦さんは、「現在、職場では男性が家事や育児のために

休暇をとることが難しい環境にあります。今回のような活動を地道に続け、社会や若いお父さんたちの意識を変え、裾野を広げていくことが大切だと考えています。男性も女性も、仕事のことや家庭のことを共に協力してやっていくという環境が整えば、みんなが笑顔で過ごすことができるのではないのでしょうか。」と熱く語っていただきました。

これからのご活躍が楽しみです。



## 男性の家事・育児参画フォトコンテスト 入賞作品をご紹介します!



ご紹介した作品以外にも、特別賞として6作品が入賞されています。入賞された作品全てを滋賀県男女共同参画課ホームページで紹介していますので、ぜひご覧ください。ホームページアドレス  
<http://www.pref.shiga.jp/c/danjo/photo.html>

滋賀県と仕事と生活の調和推進会議しがにおいて、家事や育児に積極的な男性(カジダン、イクメン)のフォトコンテストの作品を募集したところ、43点の応募がありました。このうち、入賞された作品の一部をご紹介します。

### カジダン部門

#### 【最優秀賞】

#### うちのクッキングパパ

山田 由紀さん(豊郷町)



#### 〈エピソード・コメント〉

お料理の好きなお父さん。私や子どもたちが喜ぶ顔を見ることで、ご飯をまた作ってあげようと思うみたい。仕事の勤務時間が不規則なのに休みでもおうちにいれば、お料理してくれます。作るからには目指す味に近づけるため真剣です!娘には母ではなく、父の味を伝えようと料理指導もしてくれます。

#### 【優秀賞】家事はおまかせ!

川口 あけみさん(高島市)



#### 〈エピソード・コメント〉

長男は子ども2人の4人家族。パパはホテルマン。午後4時からの勤務なので、朝ママが病院の仕事に出かけた後、5才と2才の食事。保育園の送り。掃除。洗たく。そして夜の食事の用意をして仕事に出かけるので、毎日大忙しです。家事は何でもおまかせ!です。

#### 【優秀賞】ノンストップ家事

坂居 雅史さん(野洲市)



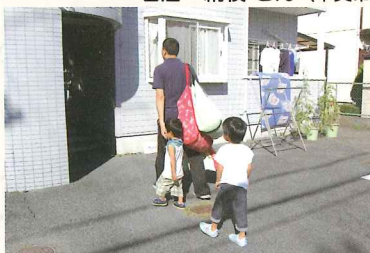
#### 〈エピソード・コメント〉

家事に休みはなく、真夏日でも首にタオルを巻き、スポンの裾をまくって汗を拭いながら掃除をしています。今回応募をするにあたって綺麗な背景を写そうと考えましたが、家事と育児で慌ただしく、とてもそんな余裕がなかったので、ありのままを写しました。共働きなので、すでに家事は習慣になっていて何でもこなしています。

### イクメン部門

#### 【優秀賞】金曜日のお迎え

岩倉 絹枝さん(甲賀市)

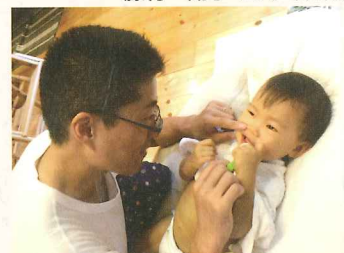


#### 〈エピソード・コメント〉

金曜日の保育園のお迎え。子ども2人、お昼寝布団2組、カバン2人分を持ち帰り。今週はパパの番。大きな布団袋もパパが持つと小さく見える。布団袋の重さも、握った子どもの手の小ささも、家族で共有。そんなライフスタイルのことを「イクメン」って言うんじゃないかな。

#### 【優秀賞】あ〜ん、して!

藤村 陽子さん(栗東市)



#### 〈エピソード・コメント〉

最近おしゃべりを始めた娘は「パパ、パパ」とよく言うパパ大好き子で、夫も楽しそうに育児をしています。歯磨きの仕上げは夫が「ゴローンして」というと娘は素直に仰向けになります。他にもご飯を食べさせたり、オムツ替えや寝かしつけ、もちろん一緒に遊んだりもしてくれるので、丸一日世話を任せても安心です。

#### 【最優秀賞】ハイ!アーンして!

戎野 毅さん(近江八幡市)



#### 〈エピソード・コメント〉

思いもよらぬ双子の女の子が我が家にやってきて、あっという間に1年3ヶ月が過ぎましたね。最初の内は、お母さんもお父さんも、どうしたものやら...もうフラフラでしたが、このごろは、ようやく一緒に楽しんでるかな?でもこれどう見ても、お父さんの顔で満腹になっちゃいそう。

# こんにちは、 G-NETしが推進員です!

※G-NETしが推進員とは…

男女共同参画センターの講座修了生など、地域の男女共同参画の推進に関わるリーダーです。

※しがWO・MANネット講座とは…

県立男女共同参画センターを拠点に、男女共同参画社会の実現に向けて活動している団体と、県立男女共同参画センターとが、それぞれの持ち味を活かし、協働して開催する県民向け講座です。

## しがWO・MANネット講座「女性史カフェ出張編@高島」取材して ～DVDで拓く 女性の先駆者たち「市川房枝」～

滋賀県立男女共同参画センターで「女性史カフェ」を実施されている女性史くらぶが、高島市で出張編を開催しました。その様子をお知らせします。

市川房枝さんのドキュメンタリー映画鑑賞の後、「女性史くらぶ」のみなさんと高島市や草津市から参加したみなさんで、参政権についての自由な意見交換会が行われました。参加者のみなさんからは、女性が参政権を獲得した当時、「選挙の前日には髪を洗い、当日には服装を整え投票した」「投票する人の名前を覚えてもらって、その練習をしてから投票した」といった興味深いエピソードを聞くことができました。女性が参政権を得たとはいえ、その後の社会への影響、効果、政治への反映はどうであったのか等、課題はたくさんありそうです。

市川房枝さんが目指した「選挙浄化」「政治浄化」「女性の地位向上」「世界平和」といった理想を、多くの女性たちが次世代に繋いできたということ、改めて考える機会となりました。

一人ひとりの女性が自分で考え、自分の言葉で表現し行動する力をつけていきたいものです。

### 「女性史くらぶ」代表 早田リツ子さんにインタビュー!

Q. 女性史を研究しようと思われたきっかけは?

A. 私は1969年に滋賀県にきました。自分自身が滋賀県で生きていく覚悟をした時に、これから住むことになる新しい世界を自分なりに理解したい、そのためには、一番身近な女性たちがどのような生活をして、どのような思いで生きてきたのかを知りたいと思ったことがきっかけです。

Q. 早田さんにとって女性史とは?

A. ある意味元気の素! 活動を続けていて、仲間や友だちができて、一緒に活動できることが、元気の素になっていますね。女性史を調べていく中で、たくさんの先輩の女性たちがいてくれた、そういう人たちがあって今があるということを感じられるということも、元気の素になりました。

Q. 女性史カフェに参加されたみなさんへのメッセージをお願いします。

A. 私たちの活動というのは、人と人とが対等に関わりあうという関係を作っていきましょうというのが大きな目標です。身近な場面で人とどう関わっていくか、自分だけでなく、世界中にいるたくさんの仲間たちに思いをはせ、想像力を養っていきましょう。



### 《参加者の感想より》

「年齢や生活環境の違う人たちが集まって、いろいろな思いや意見を交流することで、意識を変えていけることは意義あることだと思います。」「市川房枝さんのDVDを見せていただき、一票の重み、歴史を知ることの大切さを再確認しました。」

平成24年度

「女性史カフェ」今後の日程・テーマ(予定)

11月10日(土):「主婦」誕生と子育て

1月12日(土):現在の子育てと家族



## 市・町に向けて発信! こんな取組を見つけました!

### ◆「クロスロード」体験 日野町西桜谷公民館にて

「大震災から1ヶ月経過。仮設住宅建設へ向けての毎日。これまで確保した用地だけでは、少なくとも100棟分が不足。この際、小学校の運動場も使う?」あなたはYESかNOか?

阪神淡路大震災の「実話」を基にして文部科学省が作成したカードゲーム形式の防災教育教材「クロスロード」の体験を通じて、男女共同参画社会づくりを考えるワークショップが、去る7月7日(土)日野町の西桜谷公民館で開催されました。

この「クロスロード」には、町内外から約40名が参加。6つのグループに分かれて、カードに書かれた即座の判断が必要な課題について一人ひとりがYESかNOかのカードを提示し、その理由を順番に発表し、それぞれの考えや意見を聞き、情報を共有して行きます。全ての人の意見に耳を傾け、少数意見を尊重するクロスロードの取組を通して、様々な立場の人たちの思いを大切にしながら、時には「条件付きのYES」「環境が整えばYES」といったように話し合いが進んでいきます。

実際に災害や課題に直面し、機敏な決断が迫られた時、男女双方の視点に十分配慮し、日常から備えておかなければならない事を改めて実感させられるものでした。

この手法は、災害だけでなく「まちづくり」や「様々な課題解決」にも活用することができます。

(主催:日野町・滋賀県立男女共同参画センター)

☆クロスロードを活用した講座の問い合わせは当センターまで



## 男&女ア・ラ・カルト

### 近江八幡市「おやし連探訪」 ～健康推進友の会編～

仕事を退職した男性たちは、家に引きこもりがちになったり、生活のことができなかったりすると言われてきました。しかし、このことを返上した男性たちがいます。近江八幡市にある「おやし連」の元祖「健康推進友の会」のみなさんです。

このグループの始まりは、近江八幡市が高齢者や退職者に呼びかけた健康講座がきっかけでした。講座の内容は、ご飯の炊き方、買い物の工夫、調理実習、調味料の学習、おもてなし料理等。メンバーはお互いに親しくなり、初めての経験を楽しみました。メンバーの、この会を継続して欲しいとの要望から、平成14年、男の料理教室を中心として「健康推進友の会」が立ち上げられました。それから10年、男性たちは月一回の料理教室に励んでいます。また、この会の料理レシピのファイルの厚さ、工夫された組織の運営システム、古封筒等文具の再利用のエコ精神には驚いてしまいました。一人ひとりの男性たちの現役時代に磨いた技が、確実に生かされていました。

男性たちはストレスから解放され、心から料理や趣味の人生を楽しんでいるようでした。



長年にわたって蓄積されたレシピファイル!

